

## 第31回関西広域連合委員会の概要

平成25年5月11日  
関西広域連合本部

○日時：平成25年3月28日（木） 15:05～16:35

○場所：大阪府立国際会議場 10F 1005-7 会議室

○出席者：井戸連合長、仁坂副連合長、嘉田委員、山田委員、松井委員、平井委員、  
門川委員、橋下委員、竹山委員、齋藤副委員

### ○議事概要

#### 1 協議事項

##### ① 大飯原発に関する新しい安全基準の適用に関する申し入れについて

・政府及び原子力規制委員会に対し、原子力発電所に関する新しい安全基準の案を早急に取りまとめ、各項目の必要性の根拠をわかりやすく示すこと、新しい安全基準の施行後、直ちに再審査（バックフィット）を実施し、大飯原発の運転の当否を判断することなどを申し入れることを決定した。

##### ② 北陸新幹線（敦賀以西）ルート案検討について

・北陸新幹線（敦賀以西）ルートについて、費用対効果、開業までの期間などを総合的に判断した結果、「米原ルート（乗換）案」が最も優位であると提案することなどの取組方針を決定した。なお、ルートの整備に伴い発生するコスト負担のあり方については、改めて次回の連合委員会で協議することとなった。

##### ③ ワールドマスタース国際大会（WMG）の招致について

・開催形態などの検討を進め、8月トリノ大会の状況のみを最終判断することを基本に引き続き調整することとなった。

##### ④ 道州制のあり方研究会について

・3月23日に開催した研究会第1回会合について報告があった。  
・研究会が今後取り上げる論点や具体的な政策テーマなどについて指摘があり、新川座長に伝え、調整を図ることとなった。

##### ⑤ 広域計画の策定について

・これまでの取組や関西広域連合協議会有識者分科会等での意見を踏まえ作成した論点骨子案について確認した。引き続き、同有識者分科会等からの意見聴取を行うとともに、連合委員会及び連合議会には策定過程において随時報告することとした。

##### ⑥ 広域課題対応

###### (1) 広域インフラについて

・広域インフラの基本的な考え方に基つき、広域インフラマップ（道路）を作成したことについて報告があった。  
・リニア中央新幹線及び関西リニアについて、今後、広域インフラ検討会において検討することを決定した。

###### (2) 首都機能バックアップ構造の検討について

・関西経済連合会及び大阪湾ベイエリア開発推進機構と連携して行った「首都中枢機能のバックアップに関する調査」結果について報告があった。

###### (3) 特区推進の取組について

・関西イノベーション国際戦略総合特区について、平成25年度重点事業の報告があった。

###### (4) 中長期的なエネルギー政策の検討について

・中長期的なエネルギー政策について、平成25年中に広域連合として取組むべき当面の方向を取りまとめることについて報告があった。  
・今夏の電力需給対策について、電力需給状況や電力確保対策等検討を行い、次回連合委員会で協議することとなった。

## 2 報告事項

### ① 関西防災・減災プラン原子力災害対策編改定案

・井戸連合長から、国の新しい原子力災害対策指針に基づき、原子力災害対策編の改定案を作成したことについて報告があった。

### ② 関西広域応援・受援実施要綱

・井戸連合長から、「関西防災・減災プラン」に基づき、大規模広域災害発生時の応援・受援を円滑に実施できることを目的とした要綱を定めたことについて報告があった。

### ③ 「'13食博覧会・大阪」

・山田委員から、関西の食文化を内外に発信し、関西への観光客の増客などを図るため、4月に開催される「'13食博覧会・大阪」に出展することについて報告があった。

### ④ 兵庫県「受動喫煙の防止等に関する条例」

・井戸連合長から、兵庫県で、受動喫煙を防止し、県民の健康で快適な生活維持の実現を目的とした条例を平成25年4月施行することについて報告があった。

## 3 資料配付：平成25年度主要行事日程

## 第32回関西広域連合委員会の概要

平成25年5月11日  
関西広域連合本部

○日時：平成25年4月25日（木） 15:30～18:05

○場所：大阪府立国際会議場 10F 1001-2会議室

○出席者：井戸連合長、仁坂副連合長、嘉田委員、山田委員、松井委員、平井委員、飯泉委員  
門川委員、竹山委員、矢田委員、京極副委員

### ○議事概要

#### 1 関西電力株式会社からの説明

##### ① 電気料金の値上げについて

- ・関西電力(株)八木取締役社長から、電気料金について、家庭向けで平均9.75%、企業向けで平均17.26%の値上げを平成25年5月1日から行うことについて説明があった。
- ・井戸広域連合長より、高浜発電所の審査期間が延びるなど再稼働が遅れた場合であっても、これ以上の電気料金の値上げは行わないよう努力することを要請した。

##### ② 大飯発電所3, 4号機に関する新規規制基準適合性確認結果について

- ・関西電力(株)八木取締役社長から、原子力規制委員会でパブリックコメント中の新規規制基準(案)の基となった骨子に沿って、大飯発電所3, 4号機の適合性確認を行ったことについて説明があった。
- ・井戸広域連合長より、評価中の項目について早急に確認を行うことを要請した。

#### 2 協議事項

##### ① 今夏の電力需給対策について

- ・関西電力(株)八木取締役社長から、今夏の電力需給見通しについて、想定需要2,845万kWに対して予備率3%を含めた供給力2,932万kWが確保できる見通しであるとの説明があった。
- ・白井京都大学教授(電力需給等検討会議)から、関西電力の需給見通しの内容を検証した結果概ね妥当なものである旨、報告された。
- ・検証結果を踏まえ、今夏の関西電力管内の企業や家庭に昨年並みの節電(平成22年夏と比べて9%削減を目安)をお願いすることを決定した。期間は、7月1日から9月30日の平日(9時から20時)。なお、具体的な節電対策については、5月の連合委員会で決定することとした。

##### ② ワールドマスタース国際大会(WMG)の招致について

- ・高橋近畿大学教授及び長ヶ原神戸大学准教授から、WMGの概要について説明があった。
- ・今年7月末に開催提案書原案を提出、8月のトリノ大会を見てさらに検討を深め、招致について判断することを確認し、その旨を記載した返書をWMG協会(IMGA)へて発出することを決定した。
- ・開催計画の内容等について検討するためのプロジェクトチームを立ち上げることを決定した。

##### ③ 北陸新幹線(敦賀以西)取組方針について

- ・北陸新幹線(敦賀以西)ルート提案に係る取組方針について、前回留保となったルートの整備に伴い発生するコスト負担のあり方について、原案どおり決定した。
- ・なお、「米原ルート(乗換)案」では、暫定措置である米原駅での乗換が最も優位であるとの誤解が生じる恐れがあるため、(乗換)を削除することで合意した。

##### ④ 特区推進の取組について

- ・既存特区制度の見直しに関する動きに対し、関西からの提案が成長戦略に盛り込まれるよう、引き続き、積極的に提言、働きかけを実施することを確認した。

##### ⑤ 道州制のあり方研究会・道州制基本法案について

- ・道州制基本法案(骨子案)が今国会へ提出がなされる可能性があるとの報道を受け、4月中旬に「道州制基本法案(骨子案)に対する申し入れ」を発表し、5月中旬を目途に自由民主党・公明党へ申し入れを行うことを決定した。

⑥ 広域連合規約の改正について

- ・議員定数の見直しについて、関西広域連合議会での協議結果を受け、関西広域連合規約の改正を行うことを決定した。
- ・議長から申し入れのあった鳥取県の議員定数減に伴う取扱いについて、新定数による議員が選出されるまでの間は、現行定数とすることを確認した。

⑦ 首都機能バックアップ構造の構築に関する取組について

- ・「関西での首都機能バックアップ構造の構築に関する意見」について、意見書に添付する「首都中枢機能バックアップの想定」を一部修正のうえ、提出することを決定した。

3 報告事項

① 平成 25 年 4 月 13 日淡路島を震源とする地震に伴う被害等

- ・地震発生に伴う関西府県・政令市の体制及び被害状況について報告があった。

② 放射性物質拡散シミュレーションについて（兵庫県）

- ・兵庫県で行った放射性物質拡散シミュレーション結果について報告があった。

③ 関西「文化の道」事業

- ・「人形浄瑠璃PRパンフレット」が完成したことについて報告があった。

④ 大阪府及び徳島県ドクターヘリの関西広域連合への事業移管

- ・4月からドクターヘリが関西広域連合へ事業移管されたことについて報告があった。

⑤ 資格試験・免許等事務の開始

- ・4月から広域連合の業務として調理師、製菓衛生師、准看護師に係る試験・免許等事務を開始したことについて報告があった。

⑥ 兵庫県海外事務所における関西広域連合事務所看板の設置

- ・兵庫県の海外事務所に看板を設置し、海外事務所の共同利用を開始したことについて報告があった。

3 資料配付：'13食博覧会・大阪  
分野別事務局等の運営目標

2012年10月10日  
(スイス・ローザンヌ日付)

関西広域連合長  
兵庫県知事  
井戸敏三 様

ワールドマスターズゲーム (World Masters Games) は、過去 25 年にわたり 4 年ごとに開催されてきた大会です。大会規模と出場者数は増大しており、オーストラリア・シドニー市で開催された 2009 年大会には約 8 万人の選手が参加しました。次の 2013 年大会はオリンピック都市でもあるトリノ市で開催される計画であり、次の 2017 年大会は、ニュージーランドのオークランド市で開催されることが最近決定しました。

多数の会場で行われる 30 競技への出場者規模に対応できるだけの時宜を得た綿密な計画が最重要となるため、国際マスターズゲームズ協会 (International Masters Games Association: IMGA) は、このような大型のスポーツ大会を成功裏に開催するために適切な収容能力を有した開催都市を選定しています。これらの開催都市とのパートナーシップによって質の高い大会を提供してきた能力は、国際オリンピック委員会 (International Olympic Committee)、ならびに、国際パラリンピック委員会 (International paralympic Committee) から十分な認識を受けており、本協会が誇るべき名譽となっています。

大阪、京都、神戸、の各都市は、文化とスポーツの背景に富み、日本で発展しているマスターズスポーツのムーブメントと相まって、ワールドマスターズゲームズを共同開催する能力があると信じております。

国際マスターズゲームズ協会は、マスターズスポーツのムーブメントの強化と拡大をミッションとしています。このミッションを成し遂げるステップは、アジアにおいて本大会の開催を実現することであり、前述した理由だけでなく、人口高齢化の中で健康的なライフスタイルやウエルビーイング (Wellbeing) に対する関心度が高まっている意味からも、日本こそが本大会の理想的な開催地であると考えています。このような理由により、国際マスターズゲームズ協会の理事会においては、本協会が定めた基準に合致した大会開催提案書が、もし 2013 年 7 月までに貴市から提出された場合には、2021 年大会の開催を日本に指定することで決定いたしました。

また、本大会の開催は、既に行われているヨーロッパ大会や、これから開催予定である北南米アメリカ大会のように、アジアマスターズ大会 (Asian Masters Games) のような地域大会を創設していくためにも有効です。このような除幕的な発足イベントは、ワールドマスターズゲームに繋がるウォーミングアップ大会として、2016 年あるいは 2018 年に開催することが可能だと思われれます。

以上のことに皆様に関心を示して頂き、本提案のさらなる具体的な競技を進めるために、美しい日本を訪れることができればこの上ない喜びと光榮に存じます。

将来に向けてのパートナーシップを祈願して

国際マスターズゲームズ協会会長  
Kai Holm (カイ・ホルム)





INTERNATIONAL  
MASTERS  
GAMES  
ASSOCIATION

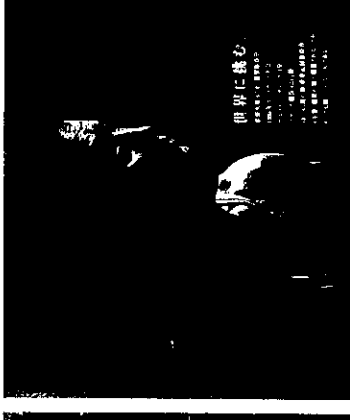
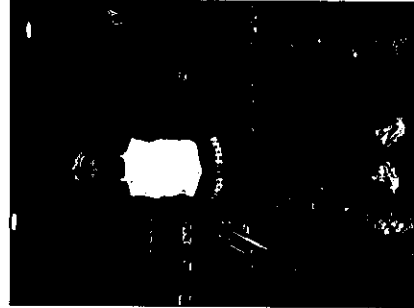
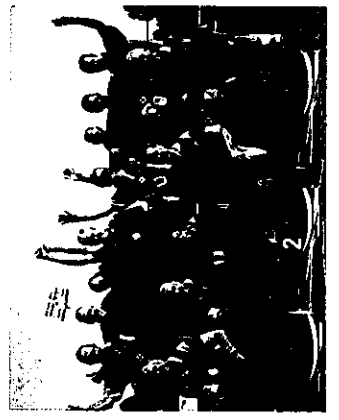
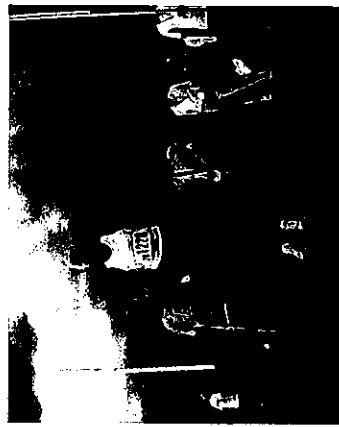
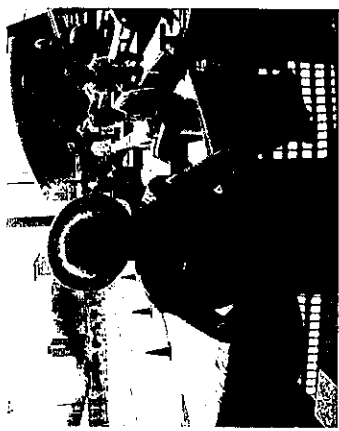
World Masters Games (WMG)

「ワールドマスターズゲームズ」とは

大会誘致に向けて

国際マスターズゲームズ協会(IMGA)が4年ごとに主催し、30才以上の成人・中高年の一般アスリートを対象とした生涯スポーツの国際総合競技大会です。

- 予選なく登録すれば大会出場可能。競技資格や選抜基準はなく、唯一の参加基準は年齢のみで上限はなし。
- 約30競技から成るプログラムに複数エントリーすることが可能。
- 男女・年代別(通常5才ごと)に種目が行われ、各年代別にメダルが授与される。
- 元プロや元オリンピック選手も出場し、キャリアを超えて一般アスリートと競技を行う。
- チームスポーツやペアスポーツは多国籍チームでの出場も可能。
- 平均9日間の大会期間と前後の観光滞在のため、生涯スポーツ大会では最長の滞在期間。



SC関西作成

# ワールドマスターズゲームズとオリンピックとの違い

## 大会誘致に向けて

ワールドマスターズゲームズ		オリンピック		
<b>概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原則4年ごとに開催されるマスターズ世代を対象とした世界規模の国際総合スポーツ競技大会。</li> <li>● 2010年から冬季大会も開催されている。</li> <li>● 国や地域を背おわず、誰でも参加できる。</li> <li>● ツーリズム・イベントとして認知されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 4年ごとに開催される世界のアマチュアのトップクラスを対象とした国際総合スポーツ競技大会。</li> <li>● 各国・各地域から代表を選抜して参加する。</li> </ul>		
<b>統括組織</b>	世界:IMGA ヨーロッパ:EMGA、アジア、日本を統括する組織は現在はない。	世界:IOC 日本:JOC		
<b>実施組織</b>	各都市が設立した実行委員会	各都市が設立した実行委員会		
<b>近年の実施(予定)都市</b>	[夏季] 2002:メルボルン 2005:エドモントン 2009:シドニー 2013:トリノ 2017:オーケランド  [冬季] 2010:バンクーバー 2015:セストリエール	[夏季] 2000:シドニー 2004:アテネ 2008:北京 2012:ロンドン 2016:リオデジャネイロ  [夏季] 1998:長野 2002:ソルトレイク 2006:トリノ 2010:バンクーバー 2014:ソチ		
<b>選手の参加条件</b>	無条件、参加料を払った人全員	各国オリンピック委員会(NOC)が選抜		
<b>大会規模</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 選手参加者数:95か国、約28,000人(シドニー大会時)</li> <li>● 総事業費:20億円(2009年滋賀大会招致時の予算)~24億円(シドニー大会)</li> <li>● 会場は既存施設を活用し、新たな施設を作る必要がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 選手参加者数:204か国、約11,000人。(北京大会時)</li> <li>● 総事業費:約3000億円(2016年東京大会招致時の委員会予算)</li> <li>● その他施設整備費は約3000億円強</li> </ul>		
<b>招致費用(参考)</b>	数千万円(2009年滋賀大会招致のための委員会の費用)	約150億円(2016年東京大会招致のための委員会費用。うち東京都負担分約55億円)		





INTERNATIONAL  
MASTERS  
GAMES  
ASSOCIATION

## ワールドマスターズゲームズ主催団体(IMGA:International Masters Games Association)

### <IMGA会長>

Kai Holm

元IOC(国際オリンピック委員会)メンバー、  
元NOC(国内オリンピック委員会)デนมマーク会長

### <IMGA理事>

Tamas Ajan

Denis Oswald

Gian-Franco Kasper

Gianni Gola

Bob Elphinston

Phil Craven

Anders Besseberg

Don Porter

Marisol Casado

Pat.McQuaid

Jose Perurena

Richard L. Carrion

John D. Coates

Carlos A. Nuzman

IOCメンバー、国際ウエイトリフティング連盟(IWF)会長

IOCメンバー、国際ボート連盟(FISA)会長

IOCメンバー、国際スキー連盟(FIS)会長

国際ミリタリースポーツ評議会(CISM)元会長

国際バスケットボール連盟元会長

IOCメンバー、国際パラリンピック委員会(IPC)会長

国際バイアスロン連合(IBU)会長

国際ソフトボール連盟(ISF)会長

IOCメンバー、国際トライアスロン連合(ITU)会長

IOCメンバー、国際自転車競技連合(UCI)会長

IOCメンバー、国際カヌー連盟(ICF)会長

IOC理事、IOC財政監査委員会議長

IOC理事、NOCオーストラリア会長、スポーツ仲裁裁判所(CAS)所長

IOCメンバー、NOCブラジル及びNOCリオ会長



INTERNATIONAL  
GAMES  
ASSOCIATION

World Masters Games (WMG)

# ワールドマスターズゲームズの開催地と大会規模

大会誘致に向けて

開催年	開催回	開催国	開催都市	開催立候補地	参加者数	参加国数
1985年	第1回	カナダ	トロント		8300	61
1989年	第2回	デンマーク	ヘアニング、オールボー オーフス(3都市開催)		5500	76
1994年	第3回	オーストラリア	ブリスベン・クイーンズランド州	ミネアポリス	25000	71
1998年	第4回	アメリカ	ポートランド・オレゴン州	ダーバン	25000	100
2002年	第5回	オーストラリア	メルボルン・NSW州	ブダペスト、サクラメント	26000	97
2005年	第6回	カナダ	エドモントン	セベリア、ローマ、オタワ	22000	88
2009年	第7回	オーストラリア	シドニー・NSW州	滋賀、ミュンヘン、 モントリオール、コペンハーゲン	32000	95
2013年	第8回	イタリア	トリノ	コペンハーゲン、ストックホルム アムステルダム、デトロイト	50000 (目標値)	100 (目標値)
2017年	第9回	ニュージーランド	オークランド	バンクーバー、オタワ ゴールドコースト		
2021年	第10回					

2016年IMGA総会にて決定

INTERNATIONAL  
MASTERS  
GAMES  
ASSOCIATION

World Masters Games (WMG)

## 2021年 World Masters Games 開催概要

大会誘致に向けて

## 競技候補(モデル案)

16コア競技(必須)	海外(人)	国内(人)	計(人)
アーチェリー	190	50	240
陸上競技	1,890	770	2,660
バドミントン	580	1,390	1,970
バスケットボール	1,190	830	2,020
カヌー	590	50	640
自転車競技	750	170	920
サッカー(フットサル)	2,040	380	2,420
フィールドホッケー	760	240	1,000
オリエンテーリング(縦走)	780	110	890
ボート競技	1,420	200	1,620
射撃	280	50	330
ソフトボール	1,780	2,210	3,990
スカッシュ	300	130	430
卓球	190	780	970
トライアスロン	500	340	840
重量挙げ	310	110	420
計	13,550	7,810	21,360

オプショナル競技(選択)	海外(人)	国内(人)	計(人)
野球(硬式・軟式)	690	1,060	1,750
ゴルフ(コース・グラウンド)	510	410	920
水泳	1,250	3,150	4,400
ラグビー	330	420	750
ボウリング	180	470	650
テニス(硬式・軟式)	450	730	1,180
ダンススポーツ (エアロビクス、社交ダンス)	-	340	340
日本武道・アジア武術 (柔道・剣道・空手・弓道・太極拳・テコンドー)	-	490	490
ウォーキングスポーツ	-	520	520
綱引き	-	80	80
フィッティング	-	60	60
ヨット	330	40	370
ハンドボール	50	810	860
バレーボール	800	1,010	1,810
計	4,590	9,590	14,180

総計 35,540人

SC関西作成



2013年5月8日

国際マスターズゲームズ協会

Kai Holm 会長

冒頭にあたり、貴国際マスターズゲームズ協会の主導するワールドマスターズゲームズの発展、および大会理念である「Sport for All」の世界的普及に向けた推進活動と御努力に心から敬意を表します。

本書は、2012年10月10日の日付文書で頂戴しました、2021年ワールドマスターズゲームズ日本招致に関する格別のご配慮とご提案への感謝の意と共に、関西広域連合として、2021年招致に向けた検討作業を進めている旨の正式表明をお伝えするためのものです。

関西広域連合は、府県域を越えた行政課題に取り組むことを目的として、日本における関西圏内の7府県(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、徳島県、鳥取県)と、その府県内4都市(京都市、大阪市、堺市、神戸市)により構成された特別地方公共団体であり、観光・文化振興や産業振興を含めた各種の広域振興事業を通じ、西日本の拠点として、国内・アジアにおける人的、文化・産業交流の活性化を目指しております。

ワールドマスターズゲームズは、世界各国から一般成人・中高年スポーツ競技者が一同に集結する生涯スポーツの世界最高峰の大会であり、個々人の活動的なライフスタイルとアクティブエイジングの推進、活力ある高齢社会の実現、観光に関わる産業・文化の活性化、国際交流の促進、青少年に対する生涯スポーツ啓発等に寄与する大会として認識されています。これらの開催効果は、関西広域連合の観光・文化振興や産業振興の主要事業として大会招致を実現することにより益々顕在化していくことが見込まれ、関西広域連合の各構成団体がもつ豊富なスポーツに関する物理的・文化的資源、参加選手や同伴家族を魅了する様々な観光資源とホスピタリティ文化、高齢化と共に急増する中高年スポーツ実施人口、さらにはスポーツ大会ボランティア・スタッフに代表される人的エネルギー資源、これらの全てを融合した広域共同開催により、第10回記念にふさわしい歴史的大会を開催することが期待できます。さらに、アジア初の開催により、本大会を真の世界的規模のレベルに発展させ、マスターズスポーツ文化のアジア発信拠点として、ワールドマスターズゲームズ開催による遺産(レジェンド)を形成していく可能性も有しています。

関西広域連合では、2021年ワールドマスターズゲームズ招致を検討するため、現在は開催提案書原案の作成準備を鋭意進めております。7月末にはその開催提案書原案を提出させて頂き、その最終調整作業として今年8月に開催されるトリノ大会へ視察団を派遣し、大会の現地調査・情報収集と共に、会長を含めたIMGA理事の方々からの開催提案書原案に対するアドバイスを頂き、高い完成度を伴った開催提案書として提出させて頂きたい意向です。

ワールドマスターズゲームズの2021招致に対する我々の強い熱意をご理解頂き、今後のより良いパートナーシップに向け、貴協会からのさらなるご支援を宜しくお願い致します。

ワールドマスターズゲームズのさらなる発展を祈願して。

関西広域連合連合長

兵庫県知事

井戸敏三

